

## 英語 e ラーニング：パソコン教室を利用した多人数コースの運営

立教大学ランゲージセンター教育講師

小林 洋子

### 1. はじめに

「e ラーニング」は全学共通カリキュラムの英語必修科目のうちの1つであり、全学期の学生が1年時の半期（前期または後期のいずれか）に受講するコースである。全ての授業がパソコン教室を使って行われており、教材はWEB教材を中心に使っている。立教大学の英語必修科目は2010年度より少人数制を取り入れており、他のコースでは8名、または20名で行われている。それに対し、e ラーニングはほとんどが160名前後という多人数で行われているのが特徴である。本稿では、どのようにパソコン教室を利用し、多人数の学生を指導しているか、その利用方法と効果について述べていく。

### 2. 授業の概要

このクラスでは、リーディングでの短文速読とリスニングでの詳細理解を中心に指導している。他の必修科目（プレゼンテーション、ライティング、ディスカッション）では英語での「発信力」に重点を置いているのに対し、e ラーニングでは、学生各自が教材にじっくりと向き合うことで、個々人の得意分野を発見し、弱点克服に取り組むことを重要視している。

### 3. 教材

中心教材として使用しているのが株式会社アルク制作のNetAcademy2 (NA2) である。この教材には、アカウントの与えられた学生はインターネットのある環境であれば学内／学外を問わず、どこからでもアクセスすることができる。立教大学のV-campus SPIRITのトップページにもリンクが貼られている。

進捗	サブコース名	進捗率(%)	学習回数	学習時間	前回学習日
<input type="checkbox"/>	レベル診断テスト	100 (終了)	2	0:16:07	2009/04/16
<input checked="" type="checkbox"/>	リスニング	13.7	114	14:34:16	2012/11/29
<input checked="" type="checkbox"/>	リーディング	7.5	102	9:26:38	2012/11/29
<input type="checkbox"/>	TOEIC(R)テスト演習	10	22	2:18:39	2012/11/25

図1：スタンダードコーストップ

「スタンダードコース」(図1)の中にリスニング、リーディング、TOEIC(R)テスト演習が含まれており、学生はこれら全てのコースを学習することになっている。授業中に教員が指定するユニットを学習する以外に、自宅や学内のパソコン教室で自習を進めて行く。この教材の進捗率が評価に含まれるため、学生は積極的に自習を行っている。特にリーディング(80ユニット)とリスニング(80ユニット)は、中には学期中に全てのユニットの学習を終了する学生もいるほどである。大学受験を終えて英語学習からしばし離れていた学生にとって、このような地道な学習は新鮮であるようで、「単語をだいぶ忘れていたが、

思い出してきた」「だんだん読むスピードが速くなって来た」などのコメントが寄せられている。

教員側には「管理者アカウント」が与えられており、学生が全ユニットの何%終了したか、各ユニットにどれくらいの時間をかけているか、クイズに何問正解したか等のデータを閲覧でき、EXCEL にダウンロードすることができる。これは 100 人以上の成績を処理するためには非常に有益な機能である。

この教材に対して、理解度を測るための小テストを用意している。これは過去の e ラーニング・コミッティーの教員が作成し、全ての担当教員でシェアしているものである。テスト出題には立教大学の CHORUS を使用している。授業前に教員が該当ユニットの小テストを CHORUS のテスト機能にアップロードし、授業時間になると学生が受験する仕組みとなっている。本クラスにおける CHORUS 使用については、次項で詳しく述べる。

さらに、株式会社エルインターフェース制作の Rikkyo English Online (REO) も教材として使用することが推奨されており、ほとんどの教員が授業で扱っている。こちらも NA2 同様にどこからでもアクセス可能である。この教材では学習するごとに「マイル」が貯まったり、目標学習時間を設定することができたりなど、自習の動機づけに繋がる機能が用意されている。特に「週刊英語ドリル」は短時間で楽しく学習できるコンテンツであり、学生に人気がある。

その他、各教員が工夫を凝らし、パソコン教室ならではの教材を提供している。著者は、ほぼ毎回の授業で YouTube の動画を使用している。例えば学習ユニットで「ケネディ大統領」がトピックとして扱われていた際には、ケネディの実際のスピーチをリスニングさせた。教員卓パソコンのインターネット接続のスピードは満足のいくものであり、これまでに YouTube などのサイトを見せる際にトラブルが起きたことはない。また、教材からは離れ、DVD を使って映画のワンシーンのリスニング、英語の歌のリスニングをさせることもある。90 分間パソコンのモニターに向かっているのは目の疲れや肩凝りなどを起こす可能性もあるので、対策として気分転換のために 5 分程度英語の歌を流す、という教員もいる。他にインターネットを利用した英語学習サイトを紹介する教員もいる。このような副教材の使用は、学生の自主学習の動機づけにも繋がっており、「自分でも YouTube で英語学習してみようと思う」「英語で映画が理解できるようになりたい」というコメントが多い。

多人数クラスのため、学生の顔と名前を覚えることはほぼ不可能であるが、Self-Evaluation Sheet (自己評価シート) にその日の学習の反省点、次回までの目標などを記入し、毎回の授業で提出させている。それに対して各教員はコメントを付けて翌週に返すため、学生は学習方法などについて質問をすることもある。

#### 4. CHORUS と授業運営

前項で述べた通り、多人数の学生を担当するこのコースでは、CHORUS の機能は必須である。メディアセンターには CHORUS 専門に対応してくれる担当者がおり、「CHORUS ホットラ

イン」に電話をすれば、使い方の分からない教員もすぐに質問をすることができる。これまでも e ラーニング向けの CHORUS 使用方法について説明会を開いて頂いたりしている。

多人数のクラスではなるべく紙の配布物は避けたい。従って、配布物はこの CHORUS の「教材」機能を使うことで、資源と時間の節約になっている。事前に Word や PDF ファイルなどをアップロードしておけば、学生はクリックすることで簡単にダウンロードできる。また、「出席管理」機能を使用することで、学生は自分の出欠状況を確認できる。このコースでは 80%以上の出席がないと単位取得ができないため、学生は出欠状況に注意を払う必要がある。上に述べた小テストでは、学生の成績をエクセルにダウンロードできるため、成績処理を簡単に行うことが可能である。また、「レポート」の機能を使うことで、学生からの提出物も簡単に処理できる。例えば、授業中に指定の英語のホームページを読ませ、英語での要約を授業中に提出させるという教員もいた。

## 5. パソコン教室と授業運営

このコースで使用するパソコン教室は、池袋キャンパスでは 8 号館 5 階、新座キャンパスでは 8 号館 3 階の CALL 教室（約 40 名収容）の 4～5 部屋と、池袋 8 号館 3 階の大教室（約 200 名収容）である。これは著者の個人的感想となるが、これだけの規模でパソコン教室が揃っている大学は都内でもそれほど多くないと思われる。

大教室の場合は 1 つの教室に全学生を収容できる。教室前面に設置された 1 つの大きなスクリーンを用い、その日の授業の流れや、英語解説の画面、YouTube 画面などを投影し、授業を行っている。また、この教室では学生がログインすることで出欠を確認できる機能が搭載されているので、それを利用して出欠を取る教員もいる。

CALL 教室では、各教室で約 40 名の学生が学習する形である。1 つの「親教室」に教員と TA（大学院生の授業助手）がおり、他の「子教室」にはメディアセンターの SA（学部生の助手）に常駐してもらっている。SA は CALL 卓の簡単な機能を操作し、親教室からの画像や音声を受信するようになっている。教室は各クラスに元々割り当てられており、教員は各教室を巡回して子教室の様子を見る。子教室の学生が教員に会う機会を増やすために、学期中に「教室交換」を行っている教員もいる。CALL 卓でも出欠の確認が可能なので、利用している教員もいる。

更に、5 階の CALL 教室には映画などの画像に合わせてシャドウィングをしたり、自分の声を録音して聞き直す機能も搭載されているので、これを使って多様な英語学習方法を取り入れているクラスもある。

## 6. 学生の反応

上述した通り、他の英語必修科目とは全く毛色の異なるこのコースでは、英語の弱点克服、自主学習意欲の促進という点で、特に効果を発揮していると思われる。それを示すアンケートの回答を紹介したい（2011 年度前期実施）。

質問：eラーニングの授業について、感想、意見、提案などを書いて下さい。

- 自分の苦手なところを自分のペースでできる授業だったのでよかったですと思います。
- これからは時間を見つけて家でもやってみたいと思います。
- 歌や映画を通して英語を身近に感じる事ができたので、今までより英語に興味がわきました。
- 音楽や映画を使ったリスニングがよかったです。私はあまり洋楽を聴いたことがないので、リスニングの勉強だけでなく、アメリカなどの文化も知ることができ、洋楽にも興味を持てるようになりました。
- REOのディクテーションなども、気軽に勉強できるのでよかったです。
- パソコンだと、リスニングを何度も聞けることがいいと思いました。ただ、リーディングはパソコン上でやりにくいと感じたことも多かったです。

## 7. 終わりに

少人数クラスで「発信型」英語を重視している立教の英語カリキュラムでは、eラーニングのような授業は必要不可欠である。英語で間違えを恐れずに発信することは、今のグローバル社会にとっては重要なスキルであり、優秀な人材の育成に繋がるであろう。このeラーニングでは、リーディングとリスニングを通し、文法の確認、語彙の習得、ネイティブスピーカーの発音の理解と練習に重きをおくことで、よりスムーズに、理解されやすい、意義のある発信ができるようにしている。

また、パソコンを使って授業を行うことで、紙の教材とは比較にならないほど大量の教材を提供できることがメリットである。自宅でも学習は出来るが、授業で教員から直接学ぶことで、教材の解説のみならず、副教材に触れ、英語学習の幅を更に広げることができる。加えて、必修英語科目の履修後、または大学卒業後も自主的に英語学習を続けられる、自立した学習者を養うことに貢献している。

この授業はメディアセンターの方々のご協力なしには成り立たない。機器の調整や補助、CHORUSの開発と改善、助手の提供など、様々な要望に迅速に応じて頂いている。これからもメディアセンターの方々のご協力の下、eラーニングをより有意義なコースにするべく、英語教員一同、尽力して行きたい。